

# 本県の公立学校の状況について（詳細版）

## 1 不登校について

### （1）本県公立学校の不登校児童生徒数の増減及び不登校の要因等

	小学校	中学校	高等学校
平成30年度	262人	751人	397人
1,000人当たりの不登校児童生徒数	5.8人	34.2人	18.4人
令和元年度	294人	812人	398人
1,000人当たりの不登校児童生徒数	6.6人	38.4人	19.2人
令和2年度	367人	849人	421人
1,000人当たりの不登校児童生徒数	8.3人	40.0人	21.4人
増減（令和元年度比）	+73人	+37人	+23人

#### [小学校]

- ・1,000人当たりの不登校児童数は、6.6人から8.3人に増加した。その主な要因としては「無気力、不安」、「親子の関わり方」等があげられる。

#### [中学校]

- ・1,000人当たりの不登校生徒数は、38.4人から40.0人に増加した。その主な要因としては「無気力、不安」、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」等があげられる。

#### [高等学校]

- ・1,000人当たりの不登校生徒数は、19.2人から21.4人に増加した。その主な要因としては「無気力、不安」、「生活リズムの乱れ、あそび、非行」等があげられる。

### （2）不登校に対する主たる取組

#### ○「累計5日以上欠席した児童生徒の個人状況・学校対応状況シート」の活用

- ・各学校では、欠席しがちな児童生徒の情報をシートに集約し、ケース会議等で活用することにより、早い段階で組織的な対応ができるよう取り組んだ。
- ・教育相談主事等が、担当地域の市町村教育委員会を訪問し、担当指導主事等とシートをもとに支援策等について継続的に協議を行った。

#### ○「不登校問題対応の手引き」及び「不登校対応基本マニュアル」の活用を徹底

- ・本手引きをもとに、すべての学校を対象とした研修を実施し、不登校の早期発見・早期対応の徹底を図った。

#### ○スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・不登校児童生徒支援員・訪問支援員の配置

- ・スクールカウンセラーを小学校155校、中学校111校、義務教育学校1校、高等学校46校、特別支援学校11校に配置した。小学校・中学校の未配置校については、拠点校からスクールカウンセラーを派遣し、全ての小学校・中学校に対応した。また、適応指導教室への配置も行った。
- ・スクールソーシャルワーカーを29市町村（独自配置をしている和歌山市を除く。）、高等学校15校に配置した。
- ・不登校児童生徒支援員を22市町の小学校・中学校に配置し、欠席しがちな児童生徒や教室に入りづらい児童生徒の学習支援等を行った。
- ・訪問支援員を13市町の小学校・中学校27校に配置し、欠席しがちな児童生徒にタブレット端末等を使った学習支援等を行った。

## 2 いじめについて

### (1) 本県公立学校のいじめの認知件数の増減及びいじめの態様等

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
平成30年度	5,329件	377件	118件	10件
1,000人当たりの認知件数	117.4件	17.2件	5.1件	7.1件
令和元年度	5,723件	505件	134件	26件
1,000人当たりの認知件数	129.1件	23.9件	6.0件	18.4件
令和2年度	4,755件	353件	76件	21件
1,000人当たりの認知件数	108.1件	16.7件	3.6件	14.3件
増減(令和元年度比)	-968件	-152件	-58件	-5件

○新型コロナウイルス感染症の影響による分散登校や休業措置等もあり、令和2年度は児童生徒同士の関わりあう機会が減ったことや、児童生徒間の物理的な距離が広がったことなどが結果として認知件数の減少につながったとも考えられる。

#### [小学校]

- ・1,000人当たりの認知件数は、129.1件から108.1件に減少した。主ないじめの態様としては、「冷やかしからかい、悪口や嫌なことを言われた。」、「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれた。」等があげられる。

#### [中学校]

- ・1,000人当たりの認知件数は、23.9件から16.7件に減少した。主ないじめの態様としては、「冷やかしからかい、悪口や嫌なことを言われた。」、「パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされた。」等があげられる。

#### [高等学校]

- ・1,000人当たりの認知件数は、6.0件から3.6件に減少した。主ないじめの態様としては、「冷やかしからかい、悪口や嫌なことを言われた。」、「仲間はずれ、集団による無視をされる。」等があげられる。

#### [特別支援学校]

- ・1,000人当たりの認知件数は、18.4件から14.3件に減少した。主ないじめの態様としては、「嫌なことや恥ずかしいことをさせられたりする。」、「冷やかしからかい、悪口や嫌なことを言われた。」等があげられる。

### (2) いじめ問題に対する主たる取組

#### ○「いじめ問題対応マニュアル」の活用といじめの認知の徹底

- ・生徒指導研究協議会や生徒指導部長会議で、マニュアルの活用方法について研修を行い、校内研修において教職員にその内容を周知徹底した。

\* 解消率(国・公・私立学校) 91.6% (前年度比-1.7ポイント)、全国4位

#### ○いじめアンケートの徹底(公立学校の実施率100%)

- ・いじめアンケートの実施を徹底し、面談を行うなど、きめ細かく児童生徒の実態把握につとめ、いじめの未然防止、早期発見・早期対応につなげた。

#### ○新型コロナウイルス感染症を理由とする差別や偏見の防止に向けた取組の推進

- ・和歌山県新型コロナウイルス感染症に係る誹謗中傷等対策に関する条例の制定等を踏まえ、全ての公立学校において、子供たちが正しい知識を学び、差別や偏見、いじめの防止等について考える機会を設けるなど、人権意識を高める取組を行うよう周知した。

○**スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置**

- ・スクールカウンセラーを小学校155校、中学校111校、義務教育学校1校、高等学校46校、特別支援学校11校に配置した。また、適応指導教室への配置も行った。
- ・スクールソーシャルワーカーを29市町村と高等学校15校に配置した。

○**「知事メール」、「教育長ポスト」**

- ・児童生徒や保護者等の悩みの相談に応じ、市町村教育委員会、学校と連携して迅速にその解決に取り組んだ。

○**SNS等を活用した相談窓口での対応**

- ・LINEを活用した教育相談体制の充実を図り、児童生徒の悩みや相談に応じ、迅速にその解決に取り組んだ。

○**道徳教育の充実**

- ・「いじめ」等をテーマにした教材を収録している本県独自の道徳教科書「心のとびら（小学校）」「希望へのかけはし（中学校）」を活用し、「思いやり」「規範意識」「生命を尊重する心」等の道徳性を醸成する取組を行った。

○**ネットトラブルに係る取組**

- ・青少年・男女共同参画課と連携し、ネットパトロールからの情報を市町村教育委員会や学校に伝え、ネットいじめの未然防止、早期発見・早期対応につなげた。

○**学校支援サポーターの活用**

- ・県警察本部少年課と連携し、問題行動等の課題を抱える中学校に対して、学校支援サポーター（警察関係者）を派遣した。

(3) **本県におけるいじめ防止対策推進法第28条第1項に規定する「重大事態」の発生件数について**

- ・「重大事態」が発生した学校数 本県3校（全国491校）
- ・「重大事態」が発生した件数 本県3件（全国514件）

3 **中途退学について**

(1) **本県公立高等学校の中途退学者数の増減及び中途退学の要因等**

	高等学校	全日制	定時制	通信制
平成30年度 中途退学率	317人 1.4%	217人 1.0%	70人 9.0%	30人 2.1%
令和元年度 中途退学率	362人 1.6%	216人 1.1%	80人 11.1%	66人 4.4%
令和2年度 中途退学率	283人 1.3%	154人 0.8%	55人 8.4%	74人 5.2%
増減(元年度比)	-79人	-62人	-25人	+8人

[全日制]

- ・中途退学者数は216人から154人に減少し、中途退学率は1.1%から0.8%に減少した。中途退学の主な要因としては、「学校生活・学業不適応」が多い。

[定時制]

- ・中途退学者数は80人から55人に減少し、中途退学率は11.1%から8.4%に減少した。中途退学の主な要因としては、「就職を希望」等の進路変更が多い。

[通信制]

- ・中途退学者数は66人から74人に増加し、中途退学率は4.4%から5.2%に増加した。中途退学の主な要因としては、在籍期間の規定から自主退学に当たるケースが多い。

#### 4 暴力行為について

##### (1) 本県公立学校の暴力行為発生件数の増減及び暴力行為の要因等

小学校	暴力行為	暴力行為の内訳			
		対教師暴力	生徒間暴力	対人暴力	器物破損
平成30年度	117件	21件	85件	3件	8件
1,000人当たりの発生件数	2.6件	0.5件	1.9件	0.1件	0.2件
令和元年度	97件	22件	51件	0件	24件
1,000人当たりの発生件数	2.2件	0.5件	1.2件	0件	0.5件
令和2年度	65件	8件	41件	0件	16件
1,000人当たりの発生件数	1.5件	0.2件	0.9件	0件	0.4件
増減(令和元年度比)	-32件	-14件	-10件	±0件	-8件

  

中学校	暴力行為	暴力行為の内訳			
		対教師暴力	生徒間暴力	対人暴力	器物破損
平成30年度	393件	62件	219件	8件	104件
1,000人当たりの発生件数	17.9件	2.8件	10.0件	0.4件	4.7件
令和元年度	186件	26件	94件	4件	62件
1,000人当たりの発生件数	8.8件	1.2件	4.4件	0.2件	2.9件
令和2年度	142件	16件	58件	4件	64件
1,000人当たりの発生件数	6.7件	0.8件	2.7件	0.2件	3.0件
増減(令和元年度比)	-44件	-10件	-36件	±0件	+2件

  

高等学校	暴力行為	暴力行為の内訳			
		対教師暴力	生徒間暴力	対人暴力	器物破損
平成30年度	52件	7件	43件	0件	2件
1,000人当たりの発生件数	2.3件	0.3件	1.9件	0件	0.1件
令和元年度	52件	4件	36件	2件	10件
1,000人当たりの発生件数	2.3件	0.2件	1.6件	0.1件	0.4件
令和2年度	50件	3件	35件	1件	11件
1,000人当たりの発生件数	2.4件	0.1件	1.7件	0.1件	0.5件
増減(令和元年度比)	-2件	-1件	-1件	-1件	+1件

○新型コロナウイルス感染症の影響による分散登校や休業措置等もあり、令和2年度は児童生徒同士の関わりあう機会が減ったことや、児童生徒間の物理的な距離が広がったことなどが結果として暴力行為発生件数の減少につながったとも考えられる。

##### [小学校]

・令和元年度の97件から65件に減少し、1,000人当たりの発生件数は、2.2件から1.5件に減少した。いじめの認知と同様に、暴力行為についても見逃さない取組が進んだことや、加害児童の状況を丁寧に見立て、再発防止に向けた個別指導を行った。

##### [中学校]

・令和元年度の186件から142件に減少し、1,000人当たりの発生件数は、8.8件から6.7件に減少した。個々の生徒の状況を丁寧に見立て、組織的に対応し、生徒間暴力・対人暴力の未然防止に努めた。

##### [高等学校]

・令和元年度の52件から50件に減少したが、1,000人当たりの発生件数は、2.3件から2.4件に増加した。個々の生徒の状況を丁寧に見立て、組織的に対応し、再発防止に努めた。

## 5 今後の取組

### (1) 共通理解を進め、組織としての対応を徹底

- 全ての教職員がいじめ、不登校等の未然防止や解消に向け、「いじめ問題対応マニュアル」や「不登校対応基本マニュアル」等に基づく対応を徹底する。
- 「累計5日以上欠席した児童生徒の個人状況・学校対応状況シート」を活用し、教職員間の情報共有と的確なアセスメントを行うなど、早期対応の取組を充実する。
- 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校それぞれの校種間の連携や情報共有を強化し、的確な情報を校内で共有し、早期対応に活かす。

### (2) タスクフォース等の支援とチーム学校力の向上

- 対応や対処が困難な事案について、弁護士・臨床心理士等の専門家で組織されたタスクフォース等を投入し、速やかな解決を図る。
- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門スタッフを校内体制に組み入れ、チーム学校としての機能を強化し、ケース会議等における的確なアセスメントに基づく指導・支援を徹底する。

### (3) 一人一人に応じた指導・支援の推進

- いじめ問題の本質的な未然防止や解決に向けて、「安全・安心な魅力ある学級づくりの研究」に取り組み、「いじめ」を生まない学級づくりを推進する。
- 道徳教育の充実を図るために、引き続き、本県独自の道徳教科書「心のとびら」(小学校)「希望へのかけはし」(中学校)を活用した授業等、規範意識を醸成する取組を継続して行う。
- 特別支援教育の視点を取り入れた授業方法の改善や学習支援、内省を促す特別指導等を充実する。
- 学び直しの少人数学級や通信制教育等、多様な学び方が可能な高校教育の整備や、入学後の学科や課程間の柔軟な学籍移動等に着手する。

### (4) 関係機関との連携による切れ目ない支援の充実

- 警察・青少年センター・児童相談所・医療機関やこども家庭相談センター等の関係機関と連携した支援の充実に努め、問題行動や虐待等の未然防止、早期発見・早期対応につなげる。
- 県立高等学校や特別支援学校と「若者サポートステーション With You」との連携強化を図り、進路未決定者や在学中に不安や困難を抱える生徒への早期段階からの切れ目ない支援をさらに充実する。